

平成16年度鳥取市政懇話会 第3回教育福祉部会 議事録

1. 日時：平成17年3月31日（木） 午後1時30分～3時30分
2. 場所：鳥取市福祉文化会館会議室
3. 出席者【委員】三谷部会長、安藤委員、池本委員、川口委員、木村委員、下田委員、仲山委員、溝口委員、吉田委員、吉村委員
【市】中川教育長、森本人権政策監、松下福祉保健部次長
事務局 企画調整課 大田 松本

4. 議事内容

- 大田補佐 部会協議での御意見を取りまとめました。漏れ、付け加えなどをご指摘ください。
- 委員 深めることは、次回以降に。本日は、全体会に報告できるよう16年度の分のまとめを。具体的な施策を考えいけたら。

〈教育に関して今まで意見をまとめた資料を朗読〉

- 委員 地域の人と先生で共同作戦、安全対策が漏れている。
- 委員 学校、保育所、幼稚園などでは訓練しているが、地域ではまだない。市民全体の心がけ、安全なまちと言われるように。地域のだれそれが担当するではなくて。
- 委員 啓蒙する。地域の元気な年寄りをお願いするような形ででも。子どもは国の宝。
- 中川教育長 特に各小学校区でこの動きは既にある。かなりの数の校区で活動がある。今後は、広めていく。どこまですれば安全ということがないで、地域の人等の力が必要。
- 委員 道徳の35時間が、全部人権問題。人権問題イコール道徳教育で、マナーとかの話は全然なく費やされている実態と。本当の意味での道徳教育ではないのでは。
- 中川教育長 調査の結果、多くの学校で適正な指導がなされ、少数の学校で35のうち20数時間が同和教育の時間という実態があり、指導をしている。
- 委員 数学の時間にもされている学校があると。下期の教科書は半分で、次の学年の教科書に進む実態があると聞いた。ゆとり教育どころではない。学力低下は当たり前だ。
- 中川教育長 もしあったら、大変なことで、恐らく保護者は黙っていない、声上がるはず。
- 委員 学力低下はもちろん問題。それ以前に人間としての生き方。相手への思いやりの気持ち、命の大切さ、敬語の使い方とかができて初めて学校の勉強も。学力ばかりに目を奪われ、急いで授業を増やすというような短絡的なことではだめ。警察、商店街などの犯罪の問題は、市民ボランティアのパトロール隊とかを明日からでも立ち上げてほしい。町内会長、各公民館、自治体、老人クラブに声をかければできる。この実態情報を公開し、みんなが自分のこととして危機感を持つ。メディアも非常に問題、責任がある。赤ちゃんのときからテレビと対話、見ながらの成長ではだめ。家族と向き合うことが大事。
- 委員 学力保障は子どもたちの学ぶ権利の保障。バックグラウンドで、教育現場は当然、家庭、地域でできることの総合的なバックアップに心がける。小学校の卒業式、数年前より、服装が落ちついてきた。その服装、頑張るぞという気持ちが続かないのはなぜか。10年前、校則の問題が出た。髪、スカートの長さ、罰する基準が明確でないと。その反動だろう。服装の自由は、当然の権利と考えられている。小学校が制服だと学校に誇りを持つ、着ていることで。業者との癒着、贈収賄とかが問題で自由でいいではないかと、これは全く違った問題。大人は、子どもたちが頑張るぞという気持ちにさせるのが仕事。地域、P

TA活動で。価値観はあるが、生活習慣をきちんとさせるのが一つの助けに。あいさつ運動なんかも。

○中川教育長 学校の卒業式についてはいろんな感想がある。中学校の服装で小学校の卒業式に出ることに様々な意見があって難しい。親がいろいろな格好をさせる。先生が、そうゆう親と話しているようですが。

○委員 膨れ上がっている自由、人権という問題で、規定は子どもの個性を束縛すると言う人があるが、一つの規則の中にはめるべき。少なくとも義務教育までは。校長先生がこうしますではだめ。PTAの組織と先生との話し合いの努力が足りない。お互いに。PTAの役員も学校にばかり期待してはだめ。地域でできることは地域で、声を上げ、キャンペーンをする。

○中川教育長 このテーマでキャンペーンを起こすに至る経緯は、各中学校区での教育懇談会。今年2年目。初年度は、権利主張。5時以降も子どもの面倒は行政の責任ではというような。同じ校区で今年はテーマを設けた。保護者同士で討論、意見が違う。それで、このテーマの運動を起こそうと。

○委員 教育委員会はやれることはしている。地域が立ち上がることがまだできていない。市民全体の立ち上がりが必要。それと啓発。自分の子だけでなく人の子の面倒も。

○委員 地域では今、何もできてない。青少年健全育成協議会などの活動状況の点検と活性化が一番。この構成員をどうするか。会議だけでなく、何をするか。地域活動をそこから。河原町は不審者対策について徹底している。学校、公民館、PTA、民生委員会、自治会で会議をし、町の皆さんが子どもの登下校の際に声をかけようと決まった。教育委員会分室が希望者を募るチラシを作って配った。校区ごとに5、6人ずつ集まり、パトロールを始めた。行動を起こすことが大事。

○中川教育長 調査したら、地域でそのような活動をする組織は市内に結構ありました。

○委員 鹿野町の高齢者も立ち上がっている。

○委員 市街地や新しい団地は取り組みが難しい。

○委員 町内会長が立ち上がるべき。それと、幼児虐待も深刻な問題。

○委員 虐待の問題は、家庭で閉じこもりがちでパニックになっている人への支援が大切。その人が悪人と決めつけず、援助の手を差し伸べる。地域の助け合い、人間関係が重要。

○委員 文化の区別で、節分が学校行事の中で差別、いじめ問題でしなくなったと聞いたことがあるが、伝統文化について子どもたちに指導があるのか。

○委員 しちゃいけないとか、したらいいとか、そんなことは全然ないですよ。

○委員 道徳教育に、伝統行事も入れていただく時間があれば。

○中川教育長 道徳の教える範疇の中の一つに文化ということが入っていますからね。

○委員 道徳に、1時間でも体験学習としてボランティアをさせては。思いやりをそこから築き上げていける。また、児童虐待に対応する陣容をふやすべき。

○委員 体験学習は中学2年生がしており、成果があがっている。

○中川教育長 このテーマで15日の市報に、特集していますので見てやってください。

○委員 キャッチフレーズで何か、部署ごとにやっていくなど。

(地域コミュニティとしての公民館のあり方について)

○委員 〈今まで意見をまとめた資料の概要を説明・・・〉公民館の広報をみると公民館も活

発にはなっている。

- 委員 公民館の当初の役割は終わった。ニューオータニ、商店街に置いたっていい。
- 委員 空き店舗に。
- 委員 もっと小規模なものを作る。行政指導がないなら、公民館という名前やめる。商工会の会議とか、若者の遊ぶ相談をする場所とかに使う。時代的な要請に合った機能に変えるべき。遊ぶ施設がない時代は、公民館に集まった。現実問題として、公民館を再活性化し、昔に戻るのには、難しい。特に鳥取市の都市部。
- 中川教育長 財政的な縛りはないが、社会教育法の縛りがある。名前の縛りはないが。ただ、社会教育や生涯学習の拠点であるのことは明確。何々地区コミュニティセンターというような名前への動きもあり、現実には検討している。
- 委員 米子の商店街の空き店舗でデイサービスをやっている。人通りの多いところに公民館をつくる。存続させるのであれば、いろんな機能を付加して、いわゆるエンターテインメント性も含めたものに。今の時代、子どもたちも含めて、多分、早晚消える運命。
- 委員 公民館活動で、いろんな学習など活発化されている以前よりも。
- 委員 ただ、利用している人と全然しない人とのギャップがある。
- 委員 ただ、利用しない人は入りにくい。
- 委員 河原町の場合は、公民館を部制でいろいろ活動している。機能を変えるのは、厳しい。みんなが寄ってきて何かをする。公民館職員はうまくリードし、計画する。
- 委員 それも建設的な意見だと思う。
- 委員 ふれあい広場的に誰でも利用できるもの。地域財産。活性化が必要。
- 委員 公民館マップが必要。市報と一緒に配布しては。職員を魅力のある企画ができる人材に。何でも相談できる公民館体制に。決して失ってはいけない。天下りがだめ。
- 中川教育長 館長は地域の推薦、任せている。公民館だよりは届きますよね。
- 委員 公民館だよりだけでは場所わからない。初めてのの方は。
- 委員 館長さんより、主事の方。新旧の市の公民館で運営方法が統一されていない。これが課題。いろんな活動の仕方で生涯学習の場の提供をやっている。地域住民を協力者とし、発掘しているところはいい活動。学童の居残り対応の場、デイサービス施設、在宅介護支援センターの機能をするのも一つの方法だが、専門的な機能、人材が必要。公民館は、大きくなった市の中で重要。
- 中川教育長 公民館は、新旧市で勤務時間、活動など千差万別。温度差の統一は、苦労が多。職員公募で選考することに対してもいろんな不平や不満が起きている。
- 委員 公民館は、小中学校と連携すべき。地域も一緒になって行くことが大事。

(次世代育成行動計画について)

- 委員 保育所問題で、鹿野で幼稚園と保育園が一体化になり、保育に欠けないため、親が家庭にいと預けられなくなった。今まで緩和されていたが、市になってから厳しい。家庭にいるお母さんだけでは、子ども同士で育つ部分の範囲が狭くなる。公民館とかで子育てサークルのような支援もあるが、遠くて行けない、支援がないとか。家で見てお年寄りが、そういう場に連れて行きよかったと。次世代の育成に関し、入所が広域になるのはいいのですが、入所条件に緩和がないものだろうか。
- 松下次長 保育園は保育に欠けるといのが絶対条件。旧町村では、保育園に余裕があり、

割と緩やかな措置をしていた。しかし、それは、国、県の公的資金が入った、一定の保育条件の下にある制度。どうしても保育園に入りたい方は、定員に枠がある場合に、国や県の助成金が出ない分、少し高い保育料で自主入所できる。絶対入れないことはない。相談してみてください。また、17年度から私立の幼稚園への助成、認可外の保育園にも少なくなるがある。国や県にもこの制度はまだない。検討をはじめたところです。

○委員 保育園から中学校と子どもは上がっていきますので教育委員会と福祉と連携して、縦割行政ではなく。施設の充実。保育園からの就学前教育から大事。

○松下次長 保育園は、幼稚園と同じく就学前教育をやっている。

(障害者福祉計画について)

○委員 障害者のニーズを十分に察知することが一番。国の施策に従った範囲内で。一般市民として、この福祉計画に対して述べにくい。

○松下次長 鳥取市社会福祉審議会に11月以降は8町村の委員が入って計22名で審議し、最後の審議会を終え、成案の答申をやる。アンケート調査、作成委員会などを実施した。今までのバリアフリーから新たなユニバーサルデザインへ。これは、初めからまちづくりや公的施設を誰でも使いやすいものをつくっていきましょうという内容。また、障害者雇用に力を入れる。名前も障害者福祉計画を障害者計画に。幅広い分野でまとめている。

○委員 情報公開もままならない部分があり、私たちが見えていない部分が多いかなど。具体的なことは言えませんが、行政でできることをしていただきたい。

(介護保険制度の見直しについて)

○委員 家庭での介添え看護の申請は、2、3カ月かかるとか。医者診断書要る。例えば独居老人で、急に足腰が動かなくなったら、間に合わない。70以上の独居老人だけでも、面倒な手続を簡素化し迅速な対応ができないか。

○松下次長 初めて要介護認定を受ける場合は、国の指針規則で申請し、ケアマネジャーの身体機能調査と医者の検診を受け審査会に。要支援、要介護の段階で公的な資金で1割負担、9割助成というような制度で迅速な決定は難しい。この審査会をもっとふやそうとしている。

○委員 70歳以上で独居老人なら、審査会はいらないような方法を考えてください。

○松下次長 元気な独居老人は介護保険にならない。独居老人対策は、生きがい事業、デイサービス事業、民生委員の取組み、町内会で、隣の福祉委員、愛の輪運動などのケアがある。社会福祉協議会、行政がそれを支援。この連携を密に、防災関係のこともあり十分検討する。

○委員 介護保険制度の施策提言は建設的な意見が書かれている。次に進みます。

(人権施策基本方針の策定と推進について)

○委員 同和教育は大切、気付かないうちに差別し、差別を受け、逆差別などと様々な意見がある。人権は、生まれたときから持つ大切な権利。(人権施策基本方針の策定と推進についての資料を説明・・・)

(男女共同参画行動の計画、策定と男女共同参画センター事業の推進と充実について)

○委員 働く女性だけの男女共同参画ではなく、家庭にいる方も男女共同参画であり、目を向けるべき。働いているのだから子どもを幼稚園に預けるのが当然という母親もいる。

○委員 特に少子化の今は、家庭にいる方にスポットを当てられないといけないかなど。

- 委員 いい講師をお招きして講演会やっても、男性の参画が少ない。自覚していただきたい。認識の植えつけが大切。
- 委員 子育て講演会、教育講演会など木村さんにお手伝いしていただきましょう。
- 委員 木村さん、NHKで応援してやってください。
- 委員 そうですね。
- 委員 男女共同参画に熱心な取組みはいいが、心配なのは、ジェンダーフリーの言葉を間違っ
て教育し、講演されていること。皆さんの意見は違うかも。私は、危惧している。
- 委員 最後に、1人1分以内ぐらいで何か言い足りなかったことなど。
- 委員 私、もう結構です。
- 委員 地域活動に市の職員の方が、その個人差あるが、積極的に参加し引っ張っていただく。
同和教育推進部で各同和地域の公民館を回り、ちょっと寂しいかなど。
- 委員 笑いのある教育、朝礼の後に、1分ほどでいいのですが大きな声で笑う。一日が楽しく
なる教育を試みはどうか。人間的なあたたかみが生まれてくるのでは。
- 委員 一番難しい子どものモラル、マナーとか、ルールについて、それぞれが自分史の思い
出の中で、あの時代がよかったとつなぎ合わせることは慎重に。虐待、親殺し、先生を
殺す生徒、今までなかったことの連続。これを教育が、時代がとやっていると進むベクト
ルみたいなものを間違う。今までのいい時代をつなぎ合わせるのでは、明治、戦前の軍国
教育がよかったとかいう議論になってしまうのではということに危惧する。自由を得るこ
との代償をどれだけ少なくするかが政治なり社会に求められること。
- 委員 ある評論家なんかは、国民は総ばかだと評価する。日本人は、自分の個の確立がない。
自己の説明力をつくり出す必要がある。それから、金は生かして使ってもらいたい。行政
の立場で、市が元気になるような政策を。次世代ということと福祉の方の介護予防施策に
金をかけるべき。たまたま市には専門家がおられますから活かして。
- 委員 刺股を3本ずつ各学校に備えることやお手伝い帳を考えてみてください。
- 委員 モラルやマナー、ルールのところでは、どうしても主観的かつ経験論的になってしま
う部分があり、論議すること自体がちょっと難しいと思う。価値観は凝り固まったものが
あり、崩れない。資料の中で、幼児教育と道徳教育の所に矛盾がある。親のケアをする専
門員の配置のところ、問題児には様々な原因があり大きなこと。
- 委員 保育所の問題で、行政が、例えば、土曜日お休みの家庭には、家で子育てしてくださ
い、親子のコミュニケーションと言っていたきたい。子育ての中で大事な部分。
- 委員 問題は、幼児期に決まる。小さいときのしつけが一番大事。高校生になってからでは
遅い。親の自覚が第一番。芸術家による出前講座というのは、ぜひ取り入れてほしい。
親のケアを行う専門員を実行に移すのにはどうするか。あらゆる家庭がり、死角になっ
ている子どもたちに目を向けてほしい。
- 委員 予算の縛りがあるけど、優先課題を持っていくべき。それぞれ、次のテーマにしてい
けたらと。
- 委員 次の日程は5月20日（金曜日）13時30分から。「教育」のテーマに絞って開催
します。

5. 閉会